「大船渡第一・第二太陽光発電所事業環境影響評価準備書」
に対する岩手県知事意見

1 総括的事項

- (1) 環境影響評価を行う過程において、環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法の選定に影響を与える新たな事情が生じた場合には、必要に応じて、環境影響評価の項目並びに予測及び評価の手法を見直し、又は追加的に調査、予測及び評価を行うこと。
- (2) 事業実施区域内には、希少な動植物が生息していることから、事業の実施にあたっては、専門家の意見を踏まえ、環境保全措置を適切に講じ、動植物の生息環境への影響の低減に努めること。また、事業実施前と比較して確認できる個体数が減少するなど、環境保全措置が不十分である可能性が生じた際は、環境保全措置内容を見直すこと。
- (3) 地域住民と適切なコミュニケーションを図る観点から、事業の実施に当たっては、環境への影響に懸念を持つ住民の意見を真摯に受け止め、環境保全対策を充実するとともに、十分な説明を行うことにより、事業に対する理解が得られるよう努めること。

2 個別的事項

(1) 大気環境

ア 騒音の評価に当たって、環境基準の類型指定がされていない地域で環境基準を準用する場合は、環境基準を準用することの妥当性を説明したうえで、現状で満たしている最も厳しい基準値の地域類型を当てはめること。

イ 工事用資材等の搬出入により、沿道の騒音レベルが大幅に上昇することがないように対策を講じること。

(2) 水環境

事業実施区域周辺に大船渡市上水道の水源が所在することから、工事による濁水により当該水道に支障が生じないように環境保全措置による対策を徹底すること。

(3) 土地の安定性

集中豪雨が頻発している状況を踏まえ、事業の実施に伴い、大規模な土砂の流出等による災害が発生しないよう環境保全措置を講じること。

(4) 動物、植物、生態系

ア 湿地に生息している重要種の移動性を踏まえ、専門家の意見を聴き、調査により生息が確認されていない湿地も含めて太陽光パネルと十分な離隔を確保するよう検討を行うこと。

また、事業がこれらの重要種に重大な影響を与える懸念があることから、施工中及び施工後も定期的にモニタリングを行うこととし、評価書において事後調査の手法を明記すること。

イ 事業実施区域は、本県におけるダイコクコガネの貴重な生息地であることから、事業によって本種の個体群が消失しないよう、最大限の対策を講じること。

なお、対策を検討するに当たっては、改変区域以外においても生息状況を調査することにより、事業が与える影響について予測の精度を高めるよう努めること。

ウ 工事車両の走行による地表の攪乱及び運用開始後の太陽光パネル施設を起因とする土壌侵食により、動植物の生息環境が変化することが懸念されることから、地表の攪乱等の可能性、重要種への影響及び保全措置について十分に検討し、対策を講じること。

また、非改変区域においては、工事車両が侵入しないように予防措置を徹底すること。

エ 事業実施区域はイヌワシの採餌活動における高利用域となっていることから、イヌワシの採餌環境を維持できるよう、専門家の意見を踏まえ、太陽光パネルの配置の見直しや設置枚数の削減について検討するとともに、事業地周辺の適切な場所において、十分な規模の草地性環境を代替餌場として新たに確保し、良好な採餌環境となるよう維持・管理すること。

(5) 景観

対象事業実施区域及びその周辺には、夏虫山や五葉山などの優れた眺望点が存在していることから、太陽光パネルの存在や反射光が眺望を阻害することがないように最大限配慮すること。

3 その他留意事項

太陽電池発電所において発電設備からの火災発生事案が報告されていることから、火災の発生防止対策を徹底すること。また、火災が発生した場合の対応についても十分に検討し、必要な措置を講じること。

4 関係地方公共団体からの意見

対象事業実施区域を管轄する関係地方公共団体から提出された環境保全の見地からの意見は別添のとおりであるので、その内容に十分留意するとともに、適切に対応すること。